

目 次

文化経済学会＜日本＞2023 年度研究大会

《凡例》

各発表の討論者については、討論者氏名末尾の上付き数字と発表タイトル末尾の上付き数字を参照してください。

表示例)

①-A 文化価値と文化財

●座長：阪本 崇 ●討論者：清水 裕太¹

タイトル	発表者
文化財まちづくりにおける矜持遺産の布置と市民トラスト文化財の提案を通じた持続可能なまちづくりに関する研究 ¹	藤原 恵洋

分 科 会 1

1-A スポーツとレガシー

●座長：中嶋 大輔 ●討論者：町田 樹

タイトル	発表者	頁
スポーツ SDGs の進展に向けての一考察	有吉 忠一 横山 勝彦	8
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるソフト・レガシーの構築とその浸透の実際	伊吹 勇亮 横山 勝彦	10

1-B アートとボランティア

●座長：直田 春夫 ●討論者：直田 春夫¹／吉田 隆之²

タイトル	発表者	頁
芸術祭・アートプロジェクトを支えるボランティア/サポーターは無垢な参加者なのか ～1990 年代から台頭する市民ボランティア社会の中で可能性を位置づける～ ¹	藤原 旅人	13
文化系ボランティア団体の比較考察：札幌市内の団体を事例として ²	三宅 美緒	15

1-C 地域と芸術活動

●座長：高橋 かおり ●討論者：林 睦

タイトル	発表者	頁
宝塚歌劇団での現役活動期間についての分析	坂部 裕美子	18

分 科 会 2

2-A 会員企画セッション I

テーマ	登壇者	頁
文化 GDP の推計と活用について	八木 匡／ 藤川 清史／ 矢根 遥佳／ 河合 満朗	21

2-B 関係性としてのアート

●座長：小泉 元宏 ●討論者：関 鎮京¹／横川 善正²／長津 結一郎³

タイトル	発表者	頁
オルタナティブスペースと趣味縁の空間 ¹	加藤 康子	24
伝統工芸品を展示するホスピタルアートの事例における新しい価値づけの評価軸 ²	荒木 由希	26
メソッド開発のための分析 ―研修における対話型鑑賞の応用 ³	谷口 彩	28

2-C デジタル&クリエイティブ産業の未来

●座長：綿江 彰禅 ●討論者：勝浦 正樹¹／半澤 誠司²／岡田 智博³

タイトル	発表者	頁
デジタルミュージックの国際貿易：データセットの作成と検証、および実証分析 ¹	高良 佑樹	31
デジタルコンテンツ産業クラスター形成と発展形態～日本と海外成長都市との比較から ²	岡田 智博	33
映画をツールとした地域文化振興の可能性-石垣島ゆがふ国際映画祭を事例として- ³	松本 文子	35

2-D 文化政策再考

●座長：菅野 幸子 ●討論者：藤原 旅人¹／熊田 知晃²／大和 滋³

タイトル	発表者	頁
大熊信行の「芸術経済学」について ―日本の「文化経済学」の一つの原点と、その今日的意義 ¹	伊藤 裕夫	38
文化政策の半世紀～自治体文化政策の変容と課題 ²	野田 邦弘	40
芸術団体の法制度の課題と芸術支援：コロナ禍でより明らかになったこと ³	田中 敬文	42

分 科 会 3

3-A 会員企画セッションⅡ

テーマ	発表者	頁
「文化統計の体系化に関する調査・研究」 ―文化統計の体系化およびマイクロデータ分析に向けて―	有馬 昌宏／ 高良 佑樹／ 勝浦 正樹／ 西郷 浩	44

3-B 文化的景観の価値

●座長：清水 麻帆 ●討論者：清水 麻帆¹／田代 洋久²／竹谷 多賀子³

タイトル	発表者	頁
花街文化の価値―スロスビーの文化価値論を参考に― ¹	中原 逸郎	47
文化的景観の持続可能な保護と活用に関する再定義の検討～国選定重要文化的景観「小鹿田焼の里」誤指導問題を通して～ ²	藤原 恵洋	49
伝統的町並みの保存が観光地の評価に与える影響：「酒蔵ツーリズム」を実施する観光地の口コミの解析 ³	谷口 みゆき	51

3-C 文化としての食

●座長：三浦 宏樹 ●討論者：清 剛治¹／滋野 浩毅²／長嶋 由紀子³

タイトル	発表者	頁
地域ブランドとしての「京野菜」の価格に関する研究 ¹	長坂 高男	54
北海道美唄市女性生産者グループ「おいで菜祭」による農産物アウトリーチとその効果 ²	岩井 千華	56
テロワール産品を通じたスキーリゾートの活性化：フランスのサヴォワ地方を例に ³	森崎 美穂子	58

*発表内容は予告なく変更されることがございます